

# V I E W

No. 91

発行責任者 湊 伸一

発行編集者 教 宣 部

**本当に社員のことなど考えているのか？！**

**今こそ労働組合の質が問われます！！**

7月10日に関西支社運輸営業部長の「現場点検」がありました。翌日7月11日の点呼で前日の部長のお言葉として「声出し等の施策の継続」と合わせて「作業中こまめな水分補給を行い熱中症防止につとめてほしい」と社員の体を気遣うコメントが紹介されました。しかし、その日の午前中、関連会社の「SEK社長」の「現場点検」があり、その時に感覚を疑うような出来事がありました。日頃夏場私たちは少しでも客室の冷気が逃げないように車内を移動する時は気を遣って「仕切り戸」を閉めますが「SEK社長」が車両の真ん中付近で「SEK社員」の作業を見ていて、どちらへ動いてもいいように両側の「仕切り戸」を開けっ放しにしていたのです。JRの作業者が気を遣って一旦閉めても「SEK」のお供の管理者がすぐ全開にしていました。「SEK」にはJRの管理者が多く出向しています。作業者の体よりも「会社幹部からの評価や自分の出世」が大事なのではないのでしょうか。

**リニアに向けた「コスト削減」や社員への「嫌がらせ」も！**

会社は『リニアを含めた3世代の鉄道運営を見据え不断に業務効率化を推進する（『JR東海7月号』）』としています。この7月からは「事務業務遂行体制の見直し」で交検職場の「事務」が廃止となりました。『JR東海誌』には「必要な申請は自ら行うという意識を持つことが必要」としています。日頃「社員はよくやってくれている」などと言いながら社員の努力に報いるどころか逆行しています。また、このままいくとこの10月からは鳥飼基地内の駐車・駐輪場から社員はしめ出されてしまいます。社員の通勤を不便にするこの「施策」に対して「いいことだ」と考える社員はいないでしょう。多くの社員から「目的のハッキリしないこの施策は社員への嫌がらせではないか」という声が出ています。

社員の皆さん、ぜひ「SEK労組」も含めたそれぞれ所属する労働組合に「解決」に向けた努力を促そうではありませんか！